

すくすく のびのび いきいき

平成 26 年 2 月 第 4 号

発行：赤穂市教育委員会 ☎ 0791-43-6857



整備が進む二之丸庭園の状況

史跡

赤穂城跡の 整備推進

赤穂市のシンボルとも言える史跡赤穂城跡。城跡は公園となり市民の皆さまの憩いの場であるとともに、赤穂義士ゆかりの史跡として多くの観光客が訪れています。

本市の貴重な遺産であるこの赤穂城跡の保存・整備と活用を図るため、本市では城跡の維持管理と整備事業を推進しています。

赤穂城跡の整備は、史跡整備として、また都市公園としての整備が進められて

おり、現在のところ、本丸や二之丸花見広場などがすでに整備を終え、広く利用されており、近年では、発掘調査によって見つかるとともに、国の名勝にも指定された二之丸庭園を中心に整備を進めています。現在のところ、池泉の復元のほか、公園整備として門・土塀・東屋などの施設、植栽、園路などの整備が進みつつあり、赤穂城の新たな見所として、その整備完了が期待されているところです。

一方、城跡の最も重要な遺構の一つとして、石垣があります。赤穂城は、本丸・二之丸・三之丸の外周を全て総石垣の城壁で囲い、さらにその石垣には近世軍学の粋を凝らした工夫が随所で見られることが大きな特徴のひとつです。

しかし、長い時間の流れの中で、石垣にひずみが生じ、石垣の崩れや、石材の転落の危険性が生じている箇所も見受けられます。また、明治以降の改変によって石垣がなくなり、城の縄張を理解しにくくなっている部分も少なくありません。赤穂城跡の最も特徴的であり、かつ、城の重要な構成要素のひとつである城壁の整備は、史跡の保全と、その正しい理解のために不可欠なものであることから、史跡指定後の昭和49年から石垣の修理事業を継続して実施してまいりました。これまで、本丸各部の石垣修理と枳形石垣などの復元、二之丸北西部の石垣修理を行い、美しい石垣本来の姿を取りもどしつつあります。

石垣の修理は、ひずんだ部分の石材を一旦取り外し、ひずみを修正しながら積み直すとともに、後世に失われた部分は新しい同種の石で補充して石垣本来の姿



修理を行っている二之丸東側の石垣

に復元します。このため、石垣を解体する前には、石一つひとつに番号と、墨線による合わせマークを付けていきます。積み直しの際には、この番号と合わせマークをもとに、一石ずつ元の位置に正確に戻るよう慎重に積み上げを行っていきます。このように文化財修理として行われる石垣の解体修理は、熟練した石工の手によって、入念な作業が行われています。

平成25年度からは、二之丸の東側、ちょうど加里屋川に面した石垣の修理に着手いたしました。石垣の裏側の土砂流出等により、歪んだり石材の転落の恐れがある部分を順次修理してまいります。工事中はご迷惑をおかけいたしますが、皆さまのご理解とご支援をお願いいたします。

平成26年 成人祝賀式

平成26年成人祝賀式が1月12日赤穂市文化会館ハーモニーホールで445人の新成人を迎えて挙行されました。

式典では、赤穂市児童合唱団に出演いただき、「赤穂市歌」や赤穂市のイメージソングでもある「愛する街赤穂」の演奏で華を添えていただきました。

式典後のアトラクションでは、「恩師からのビデオレター」を上映し、母校である中学校の様子や恩師からの激励のメッセージに、新成人も懐かしそうにしており、時折笑い声が湧き上がるなど非常に盛況でした。また、式典入場時に実施した選挙管理委員会主催の模擬選挙の結果発表も行い、新成人に投票の重要性を感じていただきました。

これから社会の一員となり、輝かしい未来へ歩き始める新成人をお祝いする、良き成人祝賀式となりました。



赤穂市児童合唱団による演奏

おいしく、安心安全な給食を 楽しく食べよう

学校給食は、ただ空腹を満たすだけではなく、健康な体づくりができるように栄養のバランスと、楽しく食べることで健全な成長をめざしています。

昨年、赤穂高校定時制の生徒が、フランスパンバーガーのメニューを考えました。その中に学校給食で人気の鶏肉のレモンづけをはさんだものがありました。これはおいしく楽しく食べた給食の記憶が頭の片隅に残っていたものと大変喜んでいきます。学校給食から食育の輪が広がっているように思います。

また、各学校園から給食センターに社会見学に来た子どもたちは、実際に給食を作っているところ、また大きな釜や杓、スパテラなど目をキラキラ輝かせて見えています。約5,600食の食材の多さと2時間余りで作り、コンテナに詰め込み配送し、帰ってきたコンテナと大量の食器を洗浄し、消毒保管していることに驚いています。その思いを「これからは残さず食べます。」など感想を送っていただけ、うれしく思います。

学校給食を生きた教材の一つとして役立ててもらうため、地元でとれた食材や季節の旬の食材を使いたいと日頃から考えて購入しています。特に赤穂産デーや地場産デーの日は赤穂産、兵庫県産にこだわっています。しかし子どもたちの笑顔を見るとときもありません。しかし子どもたちの笑顔に浮かべながら献立を作成しています。

和食が世界遺産となりましたが、給食も米飯を週4日、パンを週1日とし、日本にある米文化の継承に努めています。パンの日でも年に4日は米粉パンとして赤穂産の米を使っています。ごはん

に合う献立や、パンの日はパンにあう献立を考え、「子どもが喜ぶ」「子どもにも食べてもらいたい」「赤穂らしい」給食づくりをしています。

栄養バランスがとれ、衛生管理に細心の注意を払い、おいしく楽しく、安全安心な給食を通して、次代を担う赤穂の子どもたちの健やかな心身を育む「食育」の推進に努めていきたいと考えています。



平成25年7月12日(金) 赤穂産デー
ごはん、牛乳、ドライカレー、あつさりポテトサラダ、ちりめんじゃこのごまがらめ、あこうみかんゼリー

『忠臣蔵』全7巻がついに完結！

昭和62年7月の第三巻（史実・史料編）発刊を皮切りに編さんを進めてまいりました『忠臣蔵』全7巻が、最終巻となります第七巻（文芸・史料編）の完成をもって、このほど完結のはこびとなりました。

『忠臣蔵』全7巻は、「忠臣蔵」のふるさと赤穂市が、『赤穂市史』の続編として、赤穂事件の史実と「忠臣蔵」に関する文芸（文化・芸能）の多様な世界を集成して普及・啓発するため、学術的な調査・研究に基づいて編さんを行ってきたもので、赤穂事件および「忠臣蔵」に関する基本文献のひとつになることを目指しています。

今回発刊しました第七巻は、多種多様に描かれた忠臣蔵物の浮世絵等の絵画を網羅的に目録化し、国内外の美術館等にのこる主要な作品は図版を掲載するというもので、あわせて「忠臣蔵」の絵馬目録、玩具・折り紙の解説を収録しています。2月6日より販売を行っておりますので、ぜひこの機会にお求めください。

●価格 5,900円

※分売はいたしません。新規に購読をご希望の場合は、全巻購読を前提にお申し込みください。（揃価格32,100円）。

●販売場所・問合せ先

市史編さん室（旧市立図書館1階）
電話 43-6848



また、品切れとなっておりました4巻を含む『赤穂市史』全7巻を16セット限定で販売しています（揃価格32,400円）。セット扱いのみですが、全巻揃いで入手できる最後のチャンスです。ご希望の方はどうぞお早めに！

生涯学習を目指して

♪雲染めて新しい朝が来る♪

これは、全赤穂市高齢者大学の歌の出だしです。みなさん、「高齢者大学生」をご存じでしょうか。

市内の各公民館で開設している高齢者大学に通っている学生のことです。入学資格は60歳以上の方で、平成25年度は、約1,150人が在籍しています。講義・自主活動・クラブ活動や大学祭など、学習や様々な活動を熱心になら楽しみながら取り組み、仲間との交流を深めています。本年度の活動の中で、高齢者大学祭を紹介しましょう。大学祭では、式典・演芸・作品展などがあり、大学生活の中での発表の場となっています。平成25年度の大学祭は、三十回目を迎えることから特別に各大学の学園歌が披露されました。また本年度から永年学習に努め心身ともに健康で充実した人生を創造した学生をたたえるため、本年度百歳を迎える高齢者大学生に、赤穂市教育長から賛辞表彰が贈られることとなり、初めて一人目が誕生しました。

昨年11月8日、赤穂市文化会館ハーモニーホールで開催された大学祭式典席上において、城西校の山本年雄さんが表彰されました。会場内の高齢者大学生からは盛大な拍手が贈られ、「とても励みになった」との感想が寄せられています。



城西校 山本 年雄 さん
H25.11.8 赤穂市高齢者大学祭の式典席上において、赤穂市教育長より賛辞表彰を受けられました。

超高齢化社会を迎えた今、高齢者は主役といえるかもしれません。生涯現役を目指して、学習意欲を満たしながら人生を謳歌していきましょう。さらに長年培った経験・学習の成果を地域に還元していきましょう。それらを実現していくための選択肢のひとつとして高齢者大学生になってみませんか。

高齢者大学入学資格のある方は2月の広報をご覧ください。

子ども教室から 高齢者生きがい創造事業まで

公民館事業として各公民館では、高齢者大学のほかに子ども教室、成年・婦人教室、高齢者生きがい創造事業や各種講座を実施しています。

生涯学習を目指して、一人でも多くの方が公民館に足を運んでいただけることを期待しています。

「体感する」[体験]「学ぶ」[学習]動かす

教育現場の

VOICE

赤穂市で行っている体験教育のうち、地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」は、

春期にある中学2年生に、時間的、空間的なゆとりを確保し、生徒の主体性を尊重した地域や自然の中での様々な体験活動を通して、「生きる力」の育成を図るために取り組んでいます。平成10年に始まったこの事業は、地域の皆様に支えられ、本来の目的以上の成果



をあげることができ、生徒たちの将来のための重要な通点になっています。赤穂市内では、毎年10月の実施期間中に、中学生がお世話になっている事業所様にピンクののぼりをお配りしてPRしています。本年度実施後の生徒や関係者のアンケートがまとまりましたのでその一部や素直な感想を紹介します。

アンケートより

【生徒】 自分にとって、「トライやる・ウィーク」の一週間は充実していた。 89%

【生徒】 「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があればまたやってみたい。 82%

【生徒】 働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを感じた。 95%

【保護者】 「トライやる・ウィーク」のような活動の機会があれば、参加させたい。 94%

【関係者】 「トライやる・ウィーク」に参加した中学生の取組は意欲的だった。 78%

生徒の感想

「社会」というものは学校生活とは全く違うもので、あいさつや礼儀、マナーなどを学びました。5日間だけではどうもい分かりにくい大

人の社会ですが、中学校よりもはるかに厳しく大変な世界だということも分かりました。あいさつの大切さや人としての当たり前のマナー、人とのコミュニケーションの取り方なども学べたと思います。すごく疲れながらもありましたが、とてもやりがいがあり達成感も得られました。このトライやるで学んだことを日常生活に生かし、しっかりと生活したいです。

保護者の感想

家では反抗期で、親に小生意気な言い方をしますが、社会の一員として事業所の方と接して、言葉遣いや態度も本人なりに気を遣ったようです。学校という社会から、大きな社会に飛び出して、刺激を受けることができて良かったです。

関係者の感想

社会をまだ知らない中学生達と一緒に仕事ができ、大人になるにつれて忘れてしまっている謙虚さや素直な心をもう一度思い出させてくれた気がします。初めての経験なのに、何事にも一生懸命頑張っている姿を見て、すごくほっこりとした気持ちと、私も頑張らないといけないなあと実感しました。ここでの体験が、将来の夢を決める手助けになっていればいいなあと思っています。

小学校 修学旅行へ

延期していた赤穂市内小学校の修学旅行が、12月15～16日（赤穂西小、尾崎小、御崎小、高雄小、有年小、原小）、16～17日（赤穂小、城西小、塩屋小、坂越小）に実施されました。奈良・京都をめぐる充実した、思い出に残る体験ができました。

児童の感想

12月15日から、延期になっていた奈良・京都の修学旅行に行ってきました。少し寒かったけれど、見学先はとても空いていて、じっくりと見ることが出来ました。法隆寺では、聖徳太子ゆかりの夢殿にも行きました。また、東大寺大仏殿では、大仏の鼻の穴と同じ大きさの穴をくぐり、とてもうれしかったです。

京都の夜景もきれいでした。坐禅体験も最後までやり抜き、心のそうじができました。世界遺産のピカピカの金閣寺、お庭のきれいな銀閣寺も印象に残っています。また、今年の漢字「輪」を清水寺で見ました。仲間と楽しく過ごせたことが一番の思い出となりました。

